

第6回精華町文化財保存活用地域計画作成協議会 議事録(摘録)

- 開催日時 令和7年8月20日(水) 午後2時00分～午後4時00分
- 開催場所 精華町役場5階 501・502会議室
- 出席者 ・委員：上杉和央委員(会長)、麻生美希委員(副会長)、
田中淳一郎委員、檀上幸裕委員、佐久間隆司委員、
清水泰律委員、麻生ひろみ委員、加田勝彦委員、松本雅和委員、
石崎善久委員、西川和裕委員、平井順委員、竹鼻毅委員、
水谷直子委員(委員全員出席)
- ・事務局：川村智教育長、松井克浩教育部長、小笠原文紘生涯学習課長
山田憲史社会教育係担当係長、
金澤木綿主事、中川博勝古文書等調査員
- 傍聴者 0人
- 次第 1. 開会
2. 議事
(1) 精華町文化財保存活用地域計画(案)について
(2) 今後の予定について
3. その他
4. 閉会

■議事録

1. 開 会

○川村教育長より開会の挨拶。

○小笠原生涯学習課長より、新たに委嘱した委員(佐久間委員、加田委員、松本委員、西川委員、平井委員)と、人事異動に伴い新たに加わった事務局職員(山田社会教育担当係長)につき紹介。

2. 議 事

(1) 精華町文化財保存活用地域計画(案)について

○事務局(中川)より、精華町文化財保存活用地域計画の趣旨説明。

○事務局(中川)より、第5回作成協議会及び令和6年度文化財保護審議会(令和7年2月4日)後の経過を説明。

○事務局(金澤)より、本年6月25日から7月25日までの期間で実施した計画案へのパブリックコメントの結果を報告。

- ・パブリックコメントの意見は3名5件、各パブリックコメントの内容と回答案を確認。
- ・各委員から回答内容について異議はなく、事務局提出案で回答することを承認。

○事務局（中川・金澤）より、計画案について前回審議会から修正した内容を説明。

【各委員からの意見等】

（上杉会長）

コラムが入ったことで、計画全体になんとか魂がこもった感じがすると意見。

（竹鼻委員）

1 頁「町史編さん事業や発掘調査に取り組む一因でした。」とあるが、要因やきっかけという言葉ではないかと質問。

（中川古文書等調査員）

町史編さん事業と発掘調査の実施には様々な要因が複合しているため、「一因」とした。

（竹鼻委員）

25 頁で扱っている、京都府立大学との連携で特産化を進めている「洛いも」について、「ヤマノイモ」の一種とあるが、「ヤマイモ」の誤りではないかと質問。

（上杉会長）

植物名が「ヤマノイモ」であったはず。確認ののち、正式な植物名で記載する。

（竹鼻委員）

29 頁の図 1-21 と本文で、「木津八幡線」と「八幡木津線」が混同していると指摘。

（中川古文書等調査員）

確認して統一する。

（竹鼻委員）

35 頁、各遺跡の地図を入れたほうがよいのではないかと意見。

（中川古文書等調査委員）

72 頁から 75 頁に表とともに遺跡地図を入れている。各遺跡をわかりやすく伝えるというところは、計画本文ではなく実際に活用の措置を行っていく上で考えていきたい。

（竹鼻委員）

77 頁「寺社と祭礼行事」とあるが、「寺社」がよいのか、「社寺」がよいのか質問。

（中川古文書等調査員）

歴史的には、「寺社」という書き方がよく使われていた。このため、「寺社」を使用している。

(竹鼻委員)

93 頁地図内で前川原遺跡と下粕廃寺について、地図では表記があるが文章で言及はあるかと質問。

(中川古文書等調査員)

92 頁で下粕廃寺を大北城とみなす見解がある旨を紹介しているが、地元の説では前川原遺跡を大北城とするものもある。紙幅の都合もあり、計画内では紹介できなかった。今後の取組の中で紹介することも考えたい。

(佐久間委員)

53 頁、「逆修」のルビが「ギャクシュ」とあるが、地元の方が「ゲキシュウ」と読んだのを聞いたことがあると意見。

(中川古文書等調査員)

地元でそう読んでいる方がいることは認識しているが、それが古くから地元で伝わる読みなのかがわかっていない。ここでは辞書的な意味でフリガナを振った。

歴史的な用語は、決まった読み方が定まっていないことも多い。とはいえ、フリガナをつけないわけにもいかない。計画ではあくまでも主要な読み方の一つを挙げており、他の読みを否定するものではない。

(清水委員)

35 頁、写真のキャプションに「畑ノ前公園（遺跡公園）」とあるが、公園の正式名称は「畑ノ前公園遺跡の杜」ではないかと指摘。

(中川古文書等調査員)

括弧内の文言は、遺跡があるところが現在公園となっているという意味で注記したものであるが、正式な名称ではないのはその通りであるので表現を検討する。

(麻生ひろみ委員)

21 頁の平成 30 年台風 21 号について、最大風速 19.2 メートルとあるが、風速はこれで正しいか質問。

(中川古文書等調査員)

再度確認するが、京田辺市の記録であるので精華町の被害状況とは差異がある可能性はある。

(麻生ひろみ委員)

24 頁から 25 頁、農業について、まだ経済として回っていないかもしれないが、バイオサイエンスの研究開発が学研都市で行われている。感想であるが、この点について一言触れてもよいのではないかと意見。

（中川古文書等調査員）

検討する。

（麻生ひろみ委員）

32 頁の地図について、未来のゾーンやふれあいゾーンとは何か質問。

（西川委員）

精華町の第 6 次総合計画で示されているゾーニングであると説明。

（麻生ひろみ委員）

56 頁で紹介されている、けいはんな日時計広場の日時計からのレーザー光線照射は今はいないのか、将来の見通し等についても合わせて質問。

（加田委員）

現在も照射は行われている。保存会が存在している。

（石崎委員）

けいはんなの日時計は、京都府景観資産になっており、保存のための計画がある。文化財の枠だけでなく、都市計画課の所管する別の枠組みで今保護がされている。

（麻生ひろみ委員）

94 頁、文化に関する資料について、具体的にはどの資料が該当するのか質問。

（中川古文書等調査員）

ジャンル別の紹介をしている箇所である。個人蔵の古文書も多いため、個人名を書くのは避け、横断的に紹介した。

（水谷委員）

ルビの割付が不統一であるように見えると指摘。

（金澤主事）

統一する。

（石崎委員）

モノルビで割りつけたほうがよいと提案。

（平井委員）

11 頁、「半世紀から四半世紀に及ぶ」という表記は、「四半世紀から半世紀に及ぶ」のほうが良いのではないかと提案。

（中川古文書等調査員）

表記について検討する。

（平井委員）

いごもり祭りについて、漢字表記とひらがな表記が入り混じっていると質問。

（金澤主事）

指定等文化財は指定時に登録した名称があり、計画本文では基本的に統一している。ただ、概要版に関してはデータ作成の都合上フリガナを付けることが難しくなっており、意図的にひらがなを開いた部分もある。また、各文化財名を含みこんだ固有名詞については、その表記を優先している。

（竹鼻委員）

129 頁の方針 2－3 「活かす」について、「精華町の宝ものに磨きをかけ」というのは、具体的にどういうことを想定しているのか質問。

（金澤主事）

対応する措置としては、特産品の販売拡大と開発促進の支援、案内板の設置に関わってくる。磨きをかける対象の特徴によって、実際の行動についてはかなりばらつきが出るが、精華町の宝ものの持つ良さを伸ばしていくという内容に収斂する方針である。

（石崎委員）

国の文化財磨き上げ事業について補足。

（麻生美希副会長）

文章について、「精華町の宝ものを、まちづくりや観光、産業等で活用を促進し、その価値を発信することで磨きをかけます」という内容に修正したらより具体的になると提案。

（金澤主事）

その通り修正する。

（竹鼻委員）

135 頁の「活かす」の措置が二つしかないが、活用に関係する措置が二つということかと質問。

（上杉会長）

文化財の保存と活用の考え方では、方針 1－3 「広める」や、方針 2 の「愛する」・「学ぶ」、方針 3 の「つなぐ」・「創る」などもすべて活用という枠組みに入る。

（石崎委員）

物販や観光というキーワードがあるが、文化財保存活用地域計画というものや、文化財の保存活用というものがインバウンド等の観光を意識しているところがある。

（金澤主事）

活かすというキーワードが目立ってしまうが、執筆した立場としては「愛する」と「創る」を活用の主軸に置きたいと思っている。

(上杉会長)

新たに付け加わった第8章第3節「有事の際の体制」について、追加の経緯を補足。

○上杉会長より、本日のまとめとして各委員に一言ずつ発言を求める。

(松本委員)

文化財を守るというところでは、けいはんな学研都市精華地区まちづくり協議会として協力できることは少ないが、活用という側面、特に「創る」というところでは、協力できる部分がある。文化財を精華町のために使っていく、活用していく、そのための創るというところは、非常に理解できた。

(加田委員)

町として文化財という古くから伝わる非常に大切なものと、学研都市という新たなものも取り入れて、皆にわかるように文字にまとめて残している点で非常に貴重なことをしているという印象を持った。

(檀上委員)

56 頁、けいはんなプラザの日時計と仏像が同じ頁に載っているという点が計画の特徴をよく示しており、新鮮である。住んでいる下狛の僧坊地区も古い家並みが残っているが、古い家が空き家になり、土地が売られ、新しい家が建ち、どんどん風景が変わっていつてしまっていると感じている。また、有事の際の体制を見ていると、災害時に所有者としての責任も感じた。

(石崎委員)

文化財ドクター・文化財レスキューの制度が計画内に新たに追記されている。レスキューは倒壊した家の中にある文化財を救出するものであるが、所有者の承諾がないと入れないので、町側にも制度の周知をお願いしたい。

また街並みについては、ヘリテージマネージャーの制度もあると紹介。

(佐久間委員)

防災防犯について、無住寺院等の文化財をどうやって守っていくのか、地元だけでなく行政側も検討をお願いしたいと意見。

(金澤主事)

137 頁の措置番号 32 に、無住寺院等の防災対策を立てている。個々の事情もあるが、色々な主体で取り組んでいけたらと回答。

(麻生ひろみ委員)

新興住宅街に引っ越してきた者だが、今回で知ったことをきっかけに、地元の人びとともっと交流したい。

（清水委員）

パブリックコメントの5番目の意見で認知度不足について言及があった。ふるさと案内人の会でもいごもり祭の紹介を10年近くやっている。観光ではなく、行事として案内している。見終わった後の参加者は皆感動されている。

一生懸命作ったが、誰も知らないで終わるとというのが一番残念な結果である。認知してもらうというところは、計画完成後も努めてもらいたい。

（田中委員）

こんな良いものがあるのだと発信していく上で、デジタルミュージアムの活用がもっと具体的に見えてくるといい。どんなコンテンツがあればいいのかを考えながら、精華町の宝ものを今後、みんなで愛していくような町になっていければ。

（西川委員）

リアルでのことも大事である。また、どこからでもアクセスできるという意味での文化財の活用というのも大切である。委員のご議論の中で磨かれ、学研都市、精華町ならではの計画に仕上がっているのではないかと感じた。

（平井委員）

観光が弱いという意見を多くいただく。新しい概念を取り入れながら考えていく刺激ももらった。

（竹鼻委員）

この計画は印刷製本し、市販するのかと質問。

（小笠原生涯学習課長）

本編はボリュームもあるため、広く配布することは難しいが、概要版については広く手に取ってもらえるようお配りさせていただきたいと考えている。

（水谷委員）

コラムが追加されたことによって、協議を重ねてこの計画が出来たのだと誰にでも伝わるのではないかと感じた。せっかくならば、精華町検定のようなものを作って、知識を深めたり、実際に行ってみたりするきっかけ作りができたらいいいのではないかと。

（麻生美希副会長）

計画は出来たところがゴールではなく、そこからがまた始まりになる。計画の冊子についても、自治体の方と会った際にボロボロになっていることがある。今後精華町の計画も、そういう風になっていくといい。

(上杉会長)

地域計画は地域の過去・現在・未来をつなぐものである。これを実際に未来につないでいくために、事務局は手を抜かずに進んでいていただきたい。

○上杉会長より、基本的に計画案の内容を承認する点に異議がないか、また、今後修正があった場合は会長、もしくは副会長の承認によって行う点で異議がないか確認があり、委員より承認。

(2) 今後の予定について

○事務局（金澤）より、文化庁長官認定までの流れについて説明。また、認定後に最終の協議会を開く旨、令和8年3月28日（土）に完成シンポジウムを実施する旨を報告。

3. その他

4. 閉 会

○小笠原生涯学習課長より、委員の活発な議論に対し感謝の言葉と、次回の協議会の案内があり、閉会。